

アフリカ豚熱の症状、伝播様式、および特徴病変

アフリカ豚熱 (African swine fever ; ASF) は ASF ウイルスの感染によって起こる豚といのししの伝染病です。近年アジア・ヨーロッパを中心に感染が拡大し、日本国内への侵入の脅威が高まっています。ひとたび感染が拡大すれば清浄化は困難であるため、早期の摘発・防疫が重要です。そのためには ASF に特徴的な病変の確認や、ASF ウイルスがどのように豚群内で広がっていくのかを把握しておく必要があります。そこで本研究では、近年アジア・ヨーロッパで流行している ASF ウイルス株を豚に接種し、症状、伝播様式、および特徴病変を確認しました。

☆ 技術の概要

1. 豚の筋肉内に ASF ウイルスを接種したところ、接種量によって数日程度の差はあるものの、接種した全ての豚が発症しました。発症豚では発熱 (図 1 左)、元気消失のほか血液が固まりにくくなる症状や、脾臓と胃周囲のリンパ節が大きく腫れ、色は暗赤色から黒色を呈するという ASF に特徴的な病変が観察されました (図 2)。
2. 感染豚は主に鼻汁・唾液中に ASF ウイルスを排出しており (図 1 右)、これらを介し経鼻・経口的に同居豚は感染し、同居開始から 10 日前後で発症しました (図 1 左)。



図1. ASFウイルス接種豚およびその同居豚の体温変化と鼻汁へのウイルス排出



図2. ASFで特徴的な腫大した脾臓(矢頭)
臨床症状や外見ではASFの診断は困難です。

☆ 活用面での留意点

1. ASF と豚熱とは症状や外観からの鑑別は困難であるため、解剖して特徴所見を確認することや、その他の検査を実施する必要があります。
2. 本成果は「アフリカ豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」及びその別紙 1 「アフリカ豚熱の診断マニュアル」に記載されています。また、作成したリーフレットは農林水産省消費・安全局動物衛生課を通じて各都道府県で利用されています。
3. 詳しくは、農研機構「お問い合わせ窓口」
(<https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>) までお問い合わせください。

(農研機構 動物衛生研究部門 生澤充隆)